

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak

LICENSED PRODUCT

3/Color Black

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black

A

1

2

3

4

5

6

M

8

9

10

11

12

13

14

15

B

17

18

19

繪本在原草紙

卷之三

| |
|-----|
| 待 |
| 遠13 |
| 964 |
| 3 |



本清

奇談 信夫摺在原双帝卷二

浪華

中川昌房 著述

東都

感和亭鬼武技合

静子抱稚赴小野里

陸奥忍摺而婦被奪賊



静子抱稚赴小野里
 陸奥忍摺而婦被奪賊
 乃更衣靜子此方ふ二乃重小市後を禪られ
 日しりふ酒門も沈空くたんと是時中がいに
 たいびまの対面して其のあ唇を唇ぬ其上より死
 女児が死と菊免性高親王を益出し小野乃里よ云

遠
 964
 卷

正東堂

ぢいハ身を思つてしをうらなむ夜ハ内なるは遠道が
 もおまおをえらとせつとまをばい少路の里とせら
 坊んとおを解くお前とまうとてよ衣の傍は細夕
 うらちう仕つてまめやうなる侍女めと名を隆興思
 摺といふ兄弟なり父を大和國奈良乃系春日乃里
 うく西谷兵衛といふ由緒はる武士乃むらじかちうけ
 ちうしてびよおと老らめいあつて孫一婦ハ十二系
 妹ハ十二女乃時より至衣の御前と名をいふはして
 既なるは坊とおぶらおぶらよまおめ個より細とや
 きうせおと坊を隆興と抱くも思おををく一麗
 系殿乃細信より小門を思ひおと少をこして走じけ

走らぬおめやんせぶせらまんまめおけりけりか
 くしおおをけきくをばいふへおのしと客系
 系強いふきお治を坪お市女おうとおのくと隆
 おとてうとておのいもなまぬ山路とさくおとけ
 おおとくういハ小の着つてくお月もやがきお
 とおとハたよりうら園まきれたらまておおおひとも
 なるもはばやおとまきおをたよりとてなまうかお
 乃川環をよと少おといふ多うやぬまじ山路とて
 ていゆらき方角もまきまらあつて隆興少系と
 なるし時おはまおとてまのほとをこけり一
 ありこをたよりしてまらまらせく趣一がとて

伴乃國の子方が少味喰しも板を色そこん回と
 後後みみづばは赤をなやまう全招を二少招は
 赤をを殺してうむいも若きかえんまばたをい
 千方かむまもりうくあひつらんあひいも下の事
 て好な好淫を好むことはい日修く治く者もは益
 減りたぬい厨丸乃日和なりと母は治術をもて
 ち糸乃れは赤を何いあれも衣よの流四個の
 うまぬも少治うはまづさふさけ只より鮮血と
 流し修な純美法を流さうとむたふく味はと力
 中らと赤まふ二何し仲純は純もや揮をぬりし
 三々三個もは年若くをふるもあれと流るるまば
 うねをちめりし引返りうふ方乃乃復てうく
 やうなうまを若くやうとむい女つもくくく
 ねもも少くも少く山治を若く赤ふい大腰乃人かな
 西くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 改着小路くくくくくくくくくくくくくくくくく
 赤うくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 もばくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 かくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 赤うくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 ろさけりいの外夜はとけいばなむくくくくくく
 ちい乃若もけあうへ出まふべし録く乃若あ

うねをちめりし引返りうふ方乃乃復てうく
 やうなうまを若くやうとむい女つもくくく
 ねもも少くも少く山治を若く赤ふい大腰乃人かな
 西くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 改着小路くくくくくくくくくくくくくくくくく
 赤うくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 もばくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 かくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 赤うくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 ろさけりいの外夜はとけいばなむくくくくくく
 ちい乃若もけあうへ出まふべし録く乃若あ

くらもまじも送りゆらふよ及む流し是をくらやうのけし
 すれを盗賊もあざと美のく此はは夫脊や大京
 下り思本をうらうよあふ女京の河原下きつる事わら
 若ははれなきやたのうの事家乃上落たるじ
 せよ思まもせよ取ひかち上せひも送るべき
 産しまん好海うらぬし女よりこの肩の事
 ふおとるををんとすれ能陸真さうの被等二夜盗
 剥乃れたるじ容易に交を通さるうと思ひぬいたき
 まつ珠一乃ををぬ天乃染有の負せまのせよ身
 小島りあげ牙かまへして孫の事せし細作はた刀ぬき
 そめ河原を聞き通せばよくを付く河原を

いをまじも静子を後よかふたり盗賊どもこれ
 へり物さしをせよをを引を引とまかふと
 知はるる真先なる大徳乃眉間をてり力切付る
 二乃大刀の攻も是は弱孫を核車は藤掛ふ織成
 ねえくせいの後まき乃穂石し抜つるしせを
 十けはけ野ふ思摺か孫の用意し清府の大刀ぬき
 そむめく大勢中一切へりはらうと幸い一切
 心を結ぶくふたたらは孫女持はるるさうりも
 一人たらしが世よりたつ事ふ春日独里く追邊は
 壮士をのけり武術乃孫由してくせしが我の内て



本長一女兒もあつて少中五個七個の対ふ事大
 せぶすけす妹乃思栲ハ六十一、本番をも後まて
 いふ美藤らる生まざらうゝ存事りかゝる縁も似あ細
 流まよう敷して大津を対ふ右に似たりたを拂いて
 又おくらよ四も個と添を肩せし成こまかりいじし
 一登城もハ十方一場乃よとちうとらうと通く色なり
 足事いふ刀柄血をおぬらぬ縮よあさ免戦慄一
 せうまもはつ子の方とみ控していざげらふ法とな
 こしてあらむ少中甲も程をいふと出傳文の傳
 一やも町むかしておびきあふ一で傳ふまの事
 事をはまがむいづらほこりたうとらうと程事

いまたりきらうだて降出は雨を在軸を流す
 多を依るふは美たりはに個乃人こはいふとせんやう
 ちう大樹の枝を雨と流んとするは雷光乃流り
 四個乃鬼狀峠をよまうこからうと成事あり忽ち後真
 思栲二個を小振は捨色と流るるは法事なり後世
 二個乃鬼ハ枕高果を吹くは負つる静子親よりあふふ
 かつまんとをよもあふあふりう二乃事法事後
 上りてうら枕を走らしめたり鬼の眼を射る
 ようらあふふ二鬼ハ大株よりふりうといふと又新
 をちのめが御若しあふるもを借換しとまん道さぬ
 よこもあふふ一実よ玉縁りたりと死あやも申さぬ



隆奥
鬼形乃
中

りも〜来しか〜
 が仔細あけ〜
 かま〜が方〜
 二個の女も〜
 の方〜
 仰あ〜
 あ〜
 たり〜
 体〜
 二番〜
 添〜

流が〜
 う〜
 衣〜
 子〜
 ま〜
 の〜
 ま〜
 た〜

大乃去此忠節をこられ終るべしとて夏に後事をせしむ
りり更古終毒くく山城名以國令行るハ橋邊をふ
あせしあけハ署ハぬ

業平救忍摺危難

陸奥成捕行反間

倭水温故つゝ倭を倭勢乃境よ三國ヲ嶽くいつふ高
あまけ酒々後ろふ千方將軍といへ不滅徒乃首領なり
左大臣魚名乃後胤儀友を秀信よ四個乃男子あり千晴
千國千稔千常是なり大日本史 百三十一 六中よ千晴ハ徳守府將
軍お模ゆとなり系系よ武威をかやふ志る不後年よ
つゝ橋架延任の蓮原とより不逆を企て終る

倭は乃國よ流罪くちり日本 紀略千晴が子を千方也
子祖父乃秀郷乃勲功よつゝは之位をを升をせ
又二位の高位に叙せんを疑ふ空一かども勅許あは
ゆへつゝを懐り山王日志の神國をるふといひて三國が
岳よを電るよ乃時ハ陸奥遠くもに千方又味方す
る四個の山法師あり山の涇記之河坊を唐屋共筑紫
坊あり計四個ありまで武官と好し殊一山の要領也
アハ這回千方が味方とちりてふ計ハ中ハ橋邊も
志るふよ此千方といふもの何事々々妖術幻法と傳授し
てありや人をあつて鬼神乃はあしき事せしむる乃終
を降るこれよりつゝ体の四個乃山法師を後公のものと

たつてかの姓(姓)をりりつゝ鬼(鬼)形(形)又(又)変(変)せりり名(名)をも(も)電(電)
鬼水鬼風鬼隱(鬼水鬼風鬼隱)鬼(鬼)中(中)名(名)は(は)つ(つ)つ(つ)なる(なる)鬼(鬼)の(の)名(名)も(も)
名(名)一(一)湖(湖)を(を)お(お)ろ(ろ)ろ(ろ)ふ(ふ)け(け)若(若)も(も)法(法)方(方)又(又)術(術)回(回)して(して)秘(秘)の(の)書(書)
ふ(ふ)を(を)ら(ら)る(ら)る(ら)民(民)姓(姓)害(害)を(を)ら(ら)せ(せ)り(り)林(林)を(を)ま(ま)り(り)乃(乃)能(能)秘(秘)考(考)
よ(よ)く(く)智(智)帝(帝)乃(乃)市(市)時(時)送(送)臣(臣)千(千)方(方)と(と)よ(よ)り(り)の(の)所(所)を(を)又(又)考(考)以(以)秘(秘)
系(系)固(固)二(二)千(千)年(年)が(が)子(子)に(に)子(子)方(方)と(と)所(所)を(を)保(保)ま(ま)り(り)足(足)な(な)ん(ん)ま(ま)り(り)え(え)
か(か)る(る)奇(奇)代(代)乃(乃)湖(湖)を(を)得(得)り(り)し(し)の(の)ど(ど)も(も)ら(ら)る(る)人(人)若(若)岩(岩)窟(窟)の中(中)に(に)
只(只)身(身)に(に)あ(あ)ら(ら)る(る)事(事)は(は)た(た)か(か)ら(ら)ず(ず)い(い)小(小)城(城)も(も)敷(敷)山(山)乃(乃)其(其)秘(秘)考(考)
て(て)盜(盜)賊(賊)を(を)仕(仕)換(換)じ(じ)ま(ま)る(る)方(方)討(討)死(死)せ(せ)し(し)り(り)し(し)事(事)と(と)ま(ま)り(り)
ま(ま)る(る)秘(秘)考(考)乃(乃)秘(秘)考(考)に(に)あ(あ)ら(ら)る(る)事(事)は(は)た(た)か(か)ら(ら)ず(ず)い(い)小(小)城(城)も(も)敷(敷)山(山)乃(乃)其(其)秘(秘)考(考)
と(と)れ(れ)よ(よ)り(り)忽(忽)ち(ち)の(の)個(個)執(執)者(者)も(も)も(も)あ(あ)ら(ら)る(る)事(事)と(と)ま(ま)り(り)し(し)事(事)と(と)ま(ま)り(り)

よ(よ)り(り)ち(ち)に(に)雷(雷)電(電)と(と)り(り)た(た)お(お)ろ(ろ)ろ(ろ)世(世)の(の)怪(怪)異(異)と(と)し(し)て(て)
愚(愚)摺(摺)れ(れ)二(二)個(個)を(を)は(は)ら(ら)る(る)い(い)ち(ち)し(し)し(し)山(山)中(中)に(に)主(主)降(降)り(り)し(し)
つ(つ)つ(つ)四(四)個(個)乃(乃)賊(賊)徒(徒)二(二)個(個)乃(乃)女(女)を(を)舞(舞)夫(夫)乃(乃)陰(陰)謀(謀)と(と)し(し)て(て)
る(る)事(事)は(は)た(た)か(か)ら(ら)ず(ず)い(い)小(小)城(城)も(も)敷(敷)山(山)乃(乃)其(其)秘(秘)考(考)
風(風)傳(傳)五(五)月(月)閉(閉)花(花)秘(秘)考(考)い(い)め(め)婦(婦)人(人)な(な)り(り)し(し)事(事)は(は)た(た)か(か)ら(ら)ず(ず)い(い)
ふ(ふ)ら(ら)る(る)い(い)け(け)ら(ら)を(を)秘(秘)考(考)乃(乃)千(千)方(方)に(に)は(は)ら(ら)る(る)事(事)と(と)ま(ま)り(り)し(し)事(事)と(と)ま(ま)り(り)
回(回)る(る)事(事)は(は)た(た)か(か)ら(ら)ず(ず)い(い)小(小)城(城)も(も)敷(敷)山(山)乃(乃)其(其)秘(秘)考(考)
下(下)知(知)る(る)秘(秘)考(考)の(の)見(見)事(事)と(と)し(し)て(て)乃(乃)間(間)に(に)引(引)か(か)る(る)事(事)と(と)ま(ま)り(り)し(し)事(事)と(と)ま(ま)り(り)
志(志)る(る)事(事)は(は)た(た)か(か)ら(ら)ず(ず)い(い)小(小)城(城)も(も)敷(敷)山(山)乃(乃)其(其)秘(秘)考(考)
と(と)し(し)て(て)秘(秘)考(考)の(の)見(見)事(事)と(と)し(し)て(て)乃(乃)間(間)に(に)引(引)か(か)る(る)事(事)と(と)ま(ま)り(り)し(し)事(事)と(と)ま(ま)り(り)
来(来)り(り)し(し)鬼(鬼)神(神)姓(姓)秘(秘)考(考)乃(乃)千(千)方(方)に(に)は(は)ら(ら)る(る)事(事)と(と)ま(ま)り(り)し(し)事(事)と(と)ま(ま)り(り)



ちんちんきや
業平は
まのまきり
かくまひ
ま

又もをかけ家根を越んとせしかかき紀女乃業乃
 一はしけく裾又まきし持た新乃眠く付きて縁側
 子燭をとりて出来て何者なるは市生共間ちうく狼
 藉なりといひさま能くこれを見まば世よ酒をり
 ちふ女乃髪もみまき衣類もさけ中ま経もありさ
 術を居らさま女ども大なれらき山中にて見馴
 うた女まきうく新糸乃あなんすはけ方を親ま
 中上より暫く次并を告るふ業平これを聞か
 居間をく来る幸いふらさま召よ中らゆ女中連
 いままき市前又連来る縁側へ落し時胸を

赤しと見へて系もたへぐ乃有さまり人まの業を
 ぶへ水を吹く白女抱まおびかりく正業く新りゆ
 業平のりまきい何國乃あなまは此山中へ吟業
 ちうや若くハ券属もふらまき来るしちん名ハ何
 若く市前女ハ眼をまきこれを見まふ年ハ
 種ハいでも優美なり市安只人ハおもき是は不
 思涙のりも涙業いあして此而迷ハ新りけ人共
 援助ハんし涙を押ぬびちうく家身ハりく大和乃國
 業自地里共の系家乃市方又又仕し今日市共して
 小山の趣し踏うく鬼取のちあはまき出重中通の
 たるがこ乃とくらへさし目とちりいし也はくれ不便

と地居りて一身をゆとほひりては心へ一
とす。生に世に乃市恵めと化沈し徳頭なり侍る
お守たよし馬行り中条うれけ山幸ハ素更
の海に出く返さるはなりがさきりたがら
若しれを志すべくふ花間よかき所よりり
たり恥しめらあ乃若しぬと道うはり女も
もさうい得させし情原き作の女房も市
衣れを着せし會うを語めさせしけあら
と子ぬ怪言お王の市也の馬ハ山磯はをより
たりとされで知る若もたそのさし経
市に純若のあまの國ハ一紙千方より
件の女を

たさくら屋しと中送しけけ女ハ若の
てりまいまた屋しよの市也そたりま
道たりと連絡乃答を思き其依又
して市前又官仕へたり志はハ
何ふ時市座り習ふ女中達もあ
個侍る侍るを業年人たまの
物取乃侍るを推切し一首乃
とありしね市ハ一
みらのく純忠より



下原草子卷二



たより年
あつたす
一と身と
あつた
あ

右原草子卷二

十五

融乃之臣乃よりせ給ひし一古きをわきしし市前又
 さし出以業平莞尔とお返たししこも初めしし海を
 思ひよし給はぬ乃女らうい勇なきあけく女智休る
 出さこが詰問はかくまひ置し一仕事の間を中付んが
 たつなりをく来よ仔細を授らんこも八層の屋敷に
 なしに実ハ何保親王乃五層を在原業平なりおのりし
 名席が為不奪とましくけ山中より来り無事月日を送
 まりしあもして海をゆりしけ岩窟をのりしあはべ
 和名心の大わたり石上より紀の郡が娘の井原姫
 勅諭を去る母君乃方又有取乃即業平は主女園平と
 りりしけ西へ運ひしあはせよ女乃使海なるて仕立

へき老たり深くたのむを必人となさししとて君は
 やうよとせせよあお抱はくしとあまをけさる男後
 美乃市情とて今日まで所をね(侍)く莫大乃市恩
 たりしはたし何程の市役目たりも身命は替りてお勤
 進しさりたがけ山中を遁き出んとせば女成りも
 見しが免れしとやうか(遊)遊ししけいりきりけ長は美
 りるへしとせしとせしとせしとせしとせしとせしと
 志ししとせしとせしとせしとせしとせしとせしと
 市んまけハまじしとせしとせしとせしとせしとせしと
 一各しとせしとせしとせしとせしとせしとせしと
 一各しとせしとせしとせしとせしとせしとせしと

移りも寐屋淋し人系かきくまらあたりぬ
 鬼女を捕へ本りくぬるりくもぬくもぬく
 とりあふ名鬼たる暖きく熱くて女を交月を
 占ふふゆつたしきを色とり鬼女をまきしゆに
 のくはきむらやしふふ千方のや鬼のめは鬼
 結しつ後めのぬかたり角をぬりたて席の皮は
 獲身科をまめく女は法をぬもはうぶくあま
 ぬふくぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 あまぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 まなもんさねぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 をいふくぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

あくぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 魔りのにををぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 も女もぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 色かまのく罵るゆふ方もぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 りれも思あぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 水鬼もまぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 を獲して中をまぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 陰敷をまぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 この山中へはぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ



寺
鬼
相討
孫



石
万
堂
鬼
孫

長秋の流ぎあらしをさせんおんりまうし妻も涙
 あまは月をささるるのまじい夜に送るうさん
 かのまじい海がほめあまをさるるをさるる
 乃此個あまをさるるをさるるをさるる
 と此のやほまをさるるをさるるをさるる
 儲けをさるるをさるるをさるるをさるる
 せんしてあまをさるるをさるるをさるる
 よこかまさんやまが、妹愛物がり情もすたし何ませ
 よけいのを秋あまをさるるをさるるをさるる
 冥途の薬肉者さるるをさるるをさるる
 あまをさるるをさるるをさるるをさるる

らまうしとつづきあまをさるるをさるる
 去つてわがうゆあまをさるるをさるる
 市前を控くり使をさるるをさるる
 兼橋ら波薪るるも一願まうし使をさるる
 孫まうし使をさるるをさるるをさるる
 要しとつづきあまをさるるをさるる
 そくまの記今此個をさるるをさるる
 くれまの記今此個をさるるをさるる
 只れまの記今此個をさるるをさるる
 定むらぬかまをさるるをさるるをさるる
 とあまをさるるをさるるをさるるをさるる

とんども内ないひにたがいよ折しりぞりて何なにい居いる所ところ又また或あるも
 金鬼きんき千方ちかた又また折しりぞりて何なにい居いる所ところ又また或あるも
 陸奥むつゝと琴ことをききしへ其その侍さむらい千方ちかた八やち九く又また折しりぞりて何なにい居いる所ところ
 陸奥むつゝと琴ことをききしへ其その侍さむらい千方ちかた八やち九く又また折しりぞりて何なにい居いる所ところ
 悲かなしい有ありささふ扱あつかひ女にやよけし情なさけをわらふかよふこも千
 方ちかた侍さむらいを斬きるすれ中ちゆうへて折しりぞりて何なにい居いる所ところ又また或あるも
 悲かなしい有ありささふ扱あつかひ女にやよけし情なさけをわらふかよふこも千
 方ちかた侍さむらいを斬きるすれ中ちゆうへて折しりぞりて何なにい居いる所ところ又また或あるも
 鬼おには折しりぞりて何なにい居いる所ところ又また或あるも
 鬼おには折しりぞりて何なにい居いる所ところ又また或あるも

恨うらみむ女をんなよたにむる人ひと淋いん人じん堆たいうはれ金鬼きんきを面おもて纏まとせ
 る味あじづかふちうは次つぎぎで出でまきし水鬼みづおにを湯ゆ作つくす！
 走はしりかゝる心こころを首くび尾びあしかゝるありしけを道みちに出でか
 らるを水鬼みづおに道みちをまじりて逃にがりけ奉ほうりて後あとをさる組ぐみ付つり
 んと心こころもいまはのがまぬ而ながらば短たかし紐ひもを引ひぬきて水鬼みづおに
 服くわだを刺さ通とおす水鬼みづおにりり志こころす者ものをさバこれも紐ひもを引ひ
 斬きるし金鬼きんきを一刀ひとかた切き付つり互あひひと血ちまきさるる組ぐみ内うち
 陸奥むつゝハすハけけ北きたまの折しりぞりて何なにい居いる所ところ又また或あるも
 陸奥むつゝハすハけけ北きたまの折しりぞりて何なにい居いる所ところ又また或あるも
 大刀おほなわ純じゆん淨じやうをくわらふを千方ちかた又また折しりぞりて何なにい居いる所ところ又また或あるも
 大刀おほなわ純じゆん淨じやうをくわらふを千方ちかた又また折しりぞりて何なにい居いる所ところ又また或あるも
 をまじり扱あつかへ巴曲ふさく者ものを害がいせん為ならんし味あじ乃なりよ

引^{ひき}き^いり^りけ^{このあひ}ら^ふふ^い進^いと^く着^{けん}居^ども^い出^い来^きて^きも^い又^いも^いバ^い手^い元^い氷^い
 鬼^きも^いふ^い海^いも^いふ^いよ^いも^いの^いも^い秋^いも^い愛^いも^いく^いお^い計^いも^い死^いした^いを^い
 一^いか^いを^い千^い方^いの^いの^いけ^い女^いゆ^いも^い我^い兩^い腕^いと^い頼^いく^い一^い若^いを^い殺^い
 たり^いけ^い上^い生^いお^いく^いバ^いい^いたる^い害^いを^いた^いる^いと^いべ^いき^い彼^いも^い亦^い持^い劍^い
 り^いに^いり^い陰^い奥^いが^い首^い水^いも^いに^いま^いる^いに^いお^い落^いを^いり^いも^いと^いも^いは^いど^い
 女^いも^いま^いま^いた^いる^い體^い系^いた^いる^い志^いた^いる^いも^い秋^いも^い千^い方^いが^い一^い刀^い持^いも^い
 一^い方^いも^い首^いを^いま^いの^いり^いた^いれ^いも^い陰^い奥^いが^い互^い間^いも^い圖^いも^い何^いも^い
 千^い方^いも^いは^いま^いぎ^い一^い悪^いり^い非^い道^い乃^い兩^い鬼^い自^い滅^いを^いと^いる^い一^いハ^いハ^い
 一^いけ^い女^い乃^い方^い智^いた^いる^いも^いど^いや^い

信夫摺在原双帘卷二畢

